

保健体育科の主張

1 教科で育みたい人間像

- 5 保健体育科では、陸上競技や球技、武道などの運動種目をどうしたらすべての子どもたちが楽しく取り組むことができるようになるだろうかと様々な取り組み方や教え方を工夫してきた。また、保健においても健康や安全に関する正しい知識を身につけ、実践につながるように教え方を考えてきた。しかし、そのように工夫された授業を通して、様々な運動経験を積み重ねたり、健康や安全に関する知識を学んだりしてきた子どもたちがと運動や健康に対する価値観の更新や生活改善を図るような姿はほとんど見られません。
- 10 そこで、運動や健康に対する価値観の更新や生活改善を図っていくためには、「そもそも運動が自分にとってどのようなものであるか」「そもそも運動に親しむとはどのようなことなのか」「そもそも健康な生活を送るとはどのようなことなのか」というような疑問をもち、立ち止まり、じっくりと考えることが必要になってくるととらえている。そのように運動や健康について繰り返し考えることは、生涯にわたって運動に親しむこと自体の認識や、健康な生活を送ること自体の認識の深まりにつながっていくだろう。
- 15 これらをふまえて保健体育科では、運動や健康の当たり前に立ち止まり、考えることで見方や考え方を広げていくことができる「**運動や健康を科学する人**」を育てていきたい。そして、人生における様々な出来事に対しても自らよりよい選択をすることができる人となることを期待したい。

2 教科で願う学び

- 20 保健体育科で願う学びは「**運動や健康に関する事象に対して、問いを立て、納得解を見いだす過程を繰り返し、見方を広げていくこと**」ととらえている。子どもたちは、運動や健康に関する事象に対して、「どうしたらよいだろう」という疑問を抱きながら、思考と体現を繰り返していく。そのような営みの中で、事象に対して立ち止まり「なぜ。なんで。」という視点から共通の問いを立て、納得解を見だし、議論する過程を繰り返すことができる題材構想や問い直しを大事にしたい。
- 25 体育分野では、生涯にわたって運動に親しむこと自体の認識を深めていくために運動の仕組みや効果、目的に着目できるような題材や問い直しを大切にしている。例えば、ただ単に技能の習得を目指すのではなく、その仕組みを分析して考えることを積み重ね、運動の仕組みについての理解を深めていくことで、運動に対する見方を広げていきたい。そのために、子どもたちが運動の仕組みに対して抱いた疑問を基に
- 30 問いを立て、仮説に沿って検証を行い、考察し、納得解を見いだす過程をつくることを大切にしている。また、その納得解をもち寄り、仲間との対話を通して、納得解の質を高めていくことも大切にしたい。そして、そのような学びを繰り返すことは、運動に対する価値観の更新につながっていくだろう。
- 保健分野では、健康に関する事象に対して立ち止まり「これはどういうことなのか」と子どもたちが問い直すような学びを大事にしていきたい。なぜなら、健康に関する問題は多岐にわたり、複雑に絡み合いながら社会情勢とともに変化する時代を生きる子どもたちにとって、自分の健康課題を解決する能力はますます欠かせないものになるからである。だからこそ、健康や安全についての知識を理解するだけでなく、知識そのものを改めて問い直し、問いを立て、追求を通して納得解を見いだす過程で、健康や安全に関する原則や概念の理解が深まり、健康な生活を送ること自体の認識に立ち止まることになるだろう。
- 40 保健体育科では、子どもたちが、運動や健康に関する原則についての理解を深め、運動や健康に対しての価値観を更新していく学びを積み重ね、見方を広げていく姿を願っている。そして、そのような願う学びを重ねた子どもたちは、運動や健康の当たり前に立ち止まり、自ら考え、見方や考え方を広げていくことができる「**運動や健康を科学する人**」になり、自らの人生においてよりよい選択ができるようになっていくだろう。